

### 第33回新生ふくしま復興推進本部会議

○日 時：平成27年1月30日（金） 16：30～16：40

○場 所：特別室（本庁舎2階）

#### 【副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。

早速、議題「復興公営住宅の整備見通しについて」、避難地域復興局長。

#### 【避難地域復興局長】

資料1をご覧ください。

復興公営住宅の整備につきましては、福島県復興公営住宅整備計画に基づき、4,890戸の整備を進めてきたところではありますが、地区ごとの造成設計により、宅地造成に時間を要することが判明したことなどによって、昨年8月にお示しした整備時期に遅れが生じたところがあります。

次に、資料2をご覧ください。

各地区の今後の見通しをお示した表ではありますが、いわき市の150戸を超える大規模団地を中心に、約1,000戸が平成29年度にずれ込む見通しとなっております。一方、郡山市におきましては、ほぼ平成27年度中に完成見込みですが、福島市、二本松市、南相馬市などにおきましては、平成28年度の完成が多くなっております。

資料3でございます。昨年8月の本部会議でご報告した際には、平成28年12月までに3,700戸の完成を予定してございましたが、以上のような結果から、平成28年度までに3,700戸の約9割、3,366戸を完成させるよう、整備を進めたいと考えております。一日も早い入居が求められている中、避難者の方々の要望に応えることができず、心からお詫びを申し上げたいと思います。誠に申し訳ございません。

以上でございます。

#### 【副知事】

続いて、土木部長からお願いします。

#### 【土木部長】

私からは、資料1の2「整備期間短縮のための措置」についてご報告いたします。ここに5つほど掲げてございます。主なものとして、1点目、造成設計の部分につきましては、綿密な工程調整を進めまして、期間を短縮し

たいと考えております。

4点目、造成工事につきましては、工程的な部分で、非常に影響が大きくなっておりますので、施工性を優先した設計を行うとともに、施工者からの提案を積極的に採用いたしまして、期間の短縮に努めたいと考えます。

そして5点目、本体工事につきましては、プレキャスト工法等の採用や、木造・中層住宅の買取といった方法を取り入れまして、期間の短縮にこれまで以上に努めていきたいと考えております。

これらの措置を取るにより、一日でも早く、避難されている方々の入居が出来るよう、完成時期を早める努力を進めていきたいと思っております。私からも、工程が遅れることに対しまして、改めてお詫びを申し上げたいと思っております。本当に申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

#### 【副知事】

まもなく震災から4年になりますが、避難生活が長期化しております。復興公営住宅の整備は、避難者の今後の生活設計に非常に影響することから、避難されている方への対応を引き続きしっかりやっていく必要があると思っております。その点について、避難地域復興局長。

#### 【避難地域復興局長】

今回、住宅整備に遅れが生ずるということで、仮設住宅での生活が長期にわたることになります。従いまして、避難されている方々への支援が、ますます重要になってまいります。

このため、まずは生活再建に対する相談体制、就業支援の強化、そして、仮設住宅には特に多くの高齢者の方がおられますので、個々の状況の把握、細やかな訪問活動など、見守り体制の充実を図っていく必要があります。また、そうしたことを通じて、健康づくりの支援も必要であると考えておりますので、今後、全庁を挙げて、避難者の皆さまのサポートを充実させていく必要があると考えております。各部局と連携して、実現していきたいと考えております。以上でございます。

#### 【副知事】

これに関して、土木部長。

#### 【土木部長】

避難されている方々からは、復興公営住宅の整備状況がわかりにくいという声をいただいております。これは、不安と言っても良いかと思いますが、そう

いう声もございますので、進捗状況について、定期的にしっかりとお伝えするというのと、仮設住宅につきましては、これまでも進めてきてございますが、更にきめ細かな修繕等の対応をすることにより、少なからず今の状況を悪くしないということを進めていきたいと思っております。

また、復興公営住宅につきましては、募集の前倒しを進めまして、具体的にどの地区、どの団地にお住まいいただけるか、わかるようにし、これからどんな風に自分の生活が成り立つのかについて、不安の解消を進めていきたいと考えております。

#### 【副知事】

知事から、お願いします。

#### 【知事】

まず、避難をされている方々に対して、心からお詫びを申し上げます。皆さんの生活再建になくってはならない復興公営住宅の整備に遅れが生じることになりまして、本当に申し訳なく思っております。

長期にわたる避難生活を、安心出来る環境で暮らしたいという、皆さんの気持ちを考えて、ただ今、土木部長、避難地域復興局長からありましたとおり、工期の短縮を図って、全力を挙げて取り組んでまいります。

多くの避難されている方から、「仮設住宅は疲れた」、「早く復興公営住宅に住みたい」という声を伺っております。この気持ちは痛いほどわかります。一日も早い入居が出来るよう、あらゆることに県庁が一丸となって、しっかりと取り組んでまいります。以上です。

#### 【副知事】

では、続いて、報告事項「ふくしま復興のあゆみについて」、企画調整部長。

#### 【企画調整部長】

お手元の「ふくしま復興のあゆみ（第10版）」について、これは四半期ごとに改訂しているものでございます。

3ページの、避難者の推移については、避難者数が昨年12月現在において121,585人と、前回から5,000人強の減少となっております。

7ページのJR常磐線については、ご承知のとおり、未だ竜田駅から原ノ町駅間が不通でございますが、明日、1月31日から、バスによる代行が行われます。6時50分に原ノ町駅を出発するということですので、ご紹介しておきます。

次に、9ページ、農産物の価格の推移について、平成26年分を追加しております。なお、第9版のあゆみでは、野菜は「きゅうり」を取り上げておりました。「きゅうり」については、平成25、26年と、全国の価格とのスプレッドがほとんどない状況になっております。これは需給の関係もあって、予断を許しませんが、ひとまず今回は「きゅうり」から「アスパラガス」に置き換えております。

そして、18ページですが、下の方に「ふくしま復興ステーション」ということで、復興のポータルサイトを今日から、福島県庁のホームページで始めております。これについては、追加で資料を1枚つけておりますので、そちらをご覧ください。

本日から、復興情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」を開始しました。今までは、復興の状況を各部・各課で掲載しておりましたが、今回ポータルサイト化したことで、情報を10のカテゴリーに区分し、まとめております。

また、世界への情報発信強化ということで、7カ国語に対応しております。これは、自動翻訳を導入し、7カ国約32億人を対象としております。

それから、動画を随所に入れておまして、福島第一原発の震災直後と今の状況や除染について、私が見てもわかりやすいと感じました。本日から始めておりますので、皆さんもご覧いただきますよう、よろしく願いいたします。私からは、以上でございます。

#### 【副知事】

関連して、原子力損害対策担当理事。

#### 【原子力損害対策担当理事】

お手元に「福島の今が分かる新聞」を配布しております。

この新聞は、県内外に避難されている方々に対し、福島の復興に向けた動きや、避難者支援に関する取組み等の情報をいち早く正確に提供するため、月1回約10万部発行しております。お手元の27号は、各種相談窓口のご案内等を含めた拡大版になっておまして、昨年11月からフルカラー化しております。昨年実施した避難者意向調査においても、8割近くの方から、行政からの正確な情報が欲しいと言う声をいただいております。

これからも各部局と連携しながら、先ほどの復興公営住宅の整備状況を含めまして、避難者のニーズに応じたきめ細かな情報発信の充実に努めてまいります。

**【副知事】**

以上で、復興推進本部会議を閉じます。